



# NEWS

2011 No.243

## 6月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

### 生産ダウンとタマ不足で中古車価格が上昇

## 加熱し過ぎた市場に警戒感が強まる 被災地の復興支援を基本に商売を考えたい

東日本大震災が中古車の小売環境を一変させました。オートオークション会場での落札価格は高騰、中古車小売価格の上昇に関東以西のユーザーに買い控え傾向が出るなど、中古車販売専門家、エンドユーザーともに加熱し過ぎた市場への警戒感が強まっています。この先どうなるのかを予測します。

東日本大震災の津波被害にあった地域で、30～40万台規模で使用中的の車両が流失、それに加えて中古車販売店自体の被害もあり、社屋もろとも商品中古車も海の中に消えてしまったなどの被害も出ています。

一方で中古車市場は、エコカー補助金終了後の新車販売の低迷から下取り車発生が少ない状況が続く、慢性的な「タマ不足」状態でした。そこへ大震災の影響で自動車メーカーの生産がストップ、最需要期の今年3月の新車販売が前年同期比35.1%減、4月同47.3%減、5月も同33.4%減と新車販売が落ち込み、下取り車の発生もさらに減少しました。

東北地方を中心に需要は高いのに全国的に中古車はタマ不足という状態です。これで

は中古車はオークション価格も、小売価格もつり上がります。

被災地での人気の中心は、価格が50万円前後ですぐ乗れる車検付きの中古車です。また維持費や車庫証明でメリットがある中古の軽自動車はとりわけ人気が高まりました。一時は「中古車販売店の展示車はすべて成約済みとなっている」(宮城県・整備事業者)、「陸送から到着次第、すぐに契約が決まる」(宮城県・中古車販売専門家)という状態でした。

半面、中古車の供給不安は拡大しています。オークション会場は下取り車が大きく減少した影響で、出品車両の台数が減少しています。新車販売が4月以降大きく落ち込んでいる影響で、「6月にかけて出品台数は半分の

規模になることも覚悟している」(首都圏のAA関係者)という声も出ているほどです。

中古車相場の高騰には自動車メーカーやディーラーが対応に動き始めています。被災地の復興支援対策で首都圏のディーラーが東北地区に数百台の規模で中古車を供給しています。この輸送経費などについて首都圏のディーラーが負担し、現地の販売価格を抑えるようにしています。

また軽自動車では、人気の高い「届け出済み未使用車」について業者間売買はしないように指示を出した自動車メーカーがあるようです。エンドユーザーに販売する分には構わないのですが、業者に売られた未使用車がオークションに出品されると、生産量が不足する環境下で値が上昇し、中古車相場を押し上げることとなります。これを嫌ったメーカーの指示だということです。

自動車メーカーの本格的な生産回復は秋口からになりますが、新車供給が不足した分、中古車の需要は全国的に高まることになりそうです。被災地では今後、避難場所から仮設住宅へと移る人たちが増えることとなります。日常生活を取り戻す中で、さらに中古車需要は高まるものと考えられています。

心配な点は震災後の自粛ムードの高まりです。ガソリン価格の高騰も手伝って、消費マインドが低迷し、あらゆる面で買い控え傾向が顕著です。下取り車が発生しなければタマ不足、そして価格が上がる…。こうした悪循環に陥らないように気をつける必要がありますし、商売は商売ですが、被災地の復興支援につながることを考えたいものです。NGP協同組合は品質の高い中古部品を提供し、中古車の商品化をサポート、復興支援に努めます。



被災地では維持費負担が少ない軽自動車は大人気、展示車両はすべて成約済みの販売店もあった

シボレー・ボルトも本邦初登場

# 「人とくるまのテクノロジー展 2011」でも 主役はEV、HEV

公益社団法人自動車技術会の春季大会期間に神奈川県横浜市のパシフィコ横浜で開かれた「人とくるまのテクノロジー展 2011」(以下、テクノロジー展、5月18～20日に開催)で、電気自動車 (EV)、ハイブリッド車 (HEV) は不動の主役。化石燃料枯渇対策で自動車の電氣化は待ったなしのようです。



本邦初の触れ込みで展示されたシボレー・ボルト

今回、春季大会とともに初のEV技術に関する国際会議「EVTec'11 (1st International Electric Vehicle Technology Conference 2011)」が自動車技術会などの主催で開かれました。日本からEV技術を世界に向けて発信するのが目的です。当然、現物を見せるテクノロジー展でもEV、HEVとその関連技術は主役の位置を占めました。

目立ったものをピックアップすると、自動車メーカーの展示で国内メーカーとともに米ゼネラルモーターズ (GM) が、本邦初との触れ込みで話題の「シボレー・ボルト」

を展示していました。説明では「E-REV (エクステンデッド・レンジEV)」としており、充電して走るEVモードの走行距離は25～50マイル (40～80km)、エンジンで発電しながら走行するE-Rモードの走行距離は344マイル (550km) だそうです。

搭載する電池は16kWhのリチウムイオン電池で、8年10万マイルの保証付きです。米国の日常的な使い方では、約80%のケースがEVモードの走行で済むそうで、平均して1600kmに1回給油をすればよいとしていました。ちなみにGMは東京モーターショーへ出展しません。

これに対して日本勢は、日産自動車、三菱自動車のEVをはじめ、トヨタ自動車は発売したばかりの「プリウスα (アルファ)」のカットモデルを展示していました。

ホンダは中型セダン「インスパイア」をベースに開発したプラグインハイブリッド車 (PHEV) を太陽光発電による電気スタンドのコンセプトと共に展示していました。PHEVは実証実験を始めたばかりのものです。駆動および回生、発電用の2個の高性能モーターと直列4気筒2.0ℓのガソリンエンジンにより、モーター走行、ハイブリッド走行、エンジン走行の3モードで走行します。ちなみにEVとして走るモーター走行での走行距離は25kmとしてありました。

部品、実験・開発ツールの出展はEV、HEV対応の製品が主流でした。日産自動車と日立オートモティブシステムズが共同開発し、2011年の自動車技術会技術開発賞を受賞した「HEV・EV用回生協調対応電動型制御ブレーキ」が、日立オートモティブシステムズのブースに展示されていました。従来の負圧倍力装置を電動モーターの倍力装置に置き換え、しかもドライバーの違和感のない自然なペダルフィーリングを実現した優れたもので、ABSとの協調も可能になっています。部品もEV化に対応した進化が進んでいました。

しかしながら今後の10年、20年の自動車の変化は、EVか、エンジンかという2者択一的ではありません。2030年程度まで見通すと、まだガソリン、ディーゼルなどのエンジンが自動車のパワートレインの主力でいます。その一方で、原油の産出が急拡大する需要に追いつかず、その結果、燃料の多様化が進み、さらなる燃費の改善のためのエンジンの効率化と、ハイブリッドによる電動化が進むと自動車メーカー各社は見えています。



実証実験を始めたPHEVを展示したホンダ



トヨタはプリウスαのカットモデルを展示した



電動型制御ブレーキシステムは日産、日立オートモティブシステムズの共同開発

日本経済の軸足は未だに自動車産業にあり

# 経済産業省が自動車戦略研究会で課題を検討

経済産業省は「日本経済の新たな成長の実現を考える自動車戦略研究会」を設置して、東日本大震災後の日本で自動車産業が果たすべき新たな役割や産業のあり方の検討に取り組むことになりました。研究会の初回は5月19日、6月に取りまとめを行い、政府の新成長戦略実現会議の検討作業にも反映させるという超スピードな議論です。

東日本大震災の影響では、部品、素材のサプライチェーンが途絶え、国内ばかりか世界の自動車生産が立ち行かなくなりました。さらに福島原発の事故が起き、政府はこれまで推進してきた原子力の利用拡大を軸とするエネルギー政策を見直し、自然エネルギーの利用拡大へ方向転換することを決めました。自動車産業への影響は大きな

ものがあります。

例えば、サプライチェーンではリスクヘッジするために調達先や生産拠点を分散化する必要が出てきます。日本の自動車メーカーはすでに国内の生産台数を海外生産が上回るようになっており、今後拡大する新興国・途上国の需要を見込むと、リスクヘッジ先を海外に求めるケースも出てきそうです。震災後の生産対応の見直しで国内の空洞化が進むというのでは、経済力を弱めてしまいます。

またエネルギー政策の見直しは、電気自動車のあり方を変えることにつながります。原発で低コストの電力を量産し、EVの大量普及を図ることは難しくなりました。太陽光や風力といった自然エネルギーによ

る電力は供給が不安定で、コントロールできる供給システムが整備されなければなりません。そのためにスマートグリッドが必要となり、EVにはこれまで以上に電力を蓄える機能が求められることとなります。電池開発の強化など新たな課題も浮上します。

昨年、経済産業省は「次世代自動車戦略2010」を発表し、従来のエネルギー政策をバックにしたEV普及策を打ち出しました。原発を自然エネルギーに切り替えて、次世代自動車戦略を深掘りする必要があるということです。EV分野は国際競争の場面で日本が優位な立場にいます。この自動車産業が持つ競争力を伸ばして、復興を目指している日本経済を支えてもらうことを政府としても期待しているのでしょう。

東日本大震災の影響が散見された「2011 NEW環境展」

# 節電対応、夏場のクールダウンは最大の関心事

「2011 NEW環境展」(日報アイ・ピー主催)が5月24～27日、東京ビックサイトで開かれました。会場では環境関連機器の展示とともに今夏15%の使用電力削減が求められたことで、出展各社による暑さ対策の積極的PRが目立ちました。

粉塵の飛散を水の散布で防止する装置を工場・作業場のクールダウンに利用するというアイデアで、活発な売り込みが行われ

ていました。実際、国内の最高気温を記録した埼玉県熊谷市のJR熊谷駅前では同様の装置が使用されています。水の散布は気化熱で熱を奪ってくれるので熱中症対策に効果的です。農業用ビニールハウス内で粉塵飛散防止装置による水の散布を行ったところ、室温を5度下げることができた、と出展者は話していました。いろいろなメーカーが出展していましたが、水2リットル

を2時間かけて散布するタイプで1台36万円前後の価格設定でした。

別の暑さ対策で屋根の遮熱塗装剤なども展示がありました。お馴染みとなったファンを縫い込んだ「空調服」も注目度が高かったアイテムです。衣服の中に風を取り入れてクールダウンします。上着に縫い込まれた2個のファンは単三電池4本で約4時間稼働、別売のリチウムイオン充電電池で10時間稼働可能になります。さまざまタイプの上着があり、オプションのリチウムイオン電池を加えると、1着2万～2万5千円になります。

節電効果が高いということで、照明関係ではLEDが主流。また、節電とは少々異なりますが、原発事故後の危機管理の提案で線量計を展示しているブースもありました。大型機器ではがれきの処理や木材チップ化の提案など、震災後の世相を反映した展示が印象に残った環境展でした。



官庁関連の引き合いで品薄になっている空調服



線量計は原発事故後必需品になりつつある

## NGP 今月のCO2削減量

### リサイクル部品利用にともなう削減効果

※ NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



NGP 平成23年4月: **7,095 t**

NGP 1月からの累計: **26,574 t** (全12団体 1月からの累計 **47,232 t**)

### リターナブル梱包材利用にともなう削減効果

※リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO2排出削減の取り組みです。ダンボールに変えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。



NGP 平成23年4月: **11.7 t**

NGP 1月からの累計: **36.8 t**

※リターナブル梱包材はドア・フェンダー用に加えて2月よりバンパー用の運用を開始しました。

## 第20回初級営業マン研修会を開催

# 基本マナーと営業マンの心構えをしっかりと学んだ3日間



基本マナーや言葉遣いを頭に叩き込む



営業の本質を皆で考えたグループ討議を発表

第20回初級営業マン研修会が5月27～29日の3日間、東京・夢の島の BumB 東京スポーツ文化館で開催されました。NGPの営業マンであることを学ぶ研修会に11人が参加、堀川健志講師によるNGP協同組合の成り立ちについての講話に始まり、敬語の使い方などの基本マナーを学ぶとともに、新規顧客の獲得のために何をするのかといった営業マンとしての心構えを心に刻みました。

石上車輛の三浦佑介さんはロールプレイング演習で「自分が普段敬語と思って使っ

ていた言葉が間違った使い方であったり、“すみません”“失礼します”という言葉で相手の感じ方が変わるなど、すぐにも使える実践的な事柄を学ぶことができました」と話しています。

金沢ヨコイ部品の寺田和也さんは「物事を説明するとき、相手の顔を見ながらすると伝わりやすい。逆に顔を見ないで説明しても半分も伝わらないということが、実際の体験でわかりました」とし、研修を通じて

人への接し方を得心しました。

研修成果として「訪問件数を増やして新規のお客様を獲得します。お客様に頼りにされる営業マンになります」(福島リパーツ、鈴木清二さん)、「初心を忘れずにお客様の立場になって考えられる営業マンになります。研修で得たことを自信に変え、一つでも多く実行します」(アンドーカーパーツ、武田拓郎さん)と、各自がしっかりと目標を持って NGP の営業マンとして新しい一歩を踏み出しました。

## オートパーツ伊地知(鹿児島)新工場を披露

# 新社屋と8工場を順次完成、稼働を開始

オートパーツ伊地知(伊地知志郎社長、鹿児島県鹿児島市)は、かねてより順次建設・整備を進めてきた本社事業所の拡張刷新工事を完了、5月28日に鹿児島市内の城山観光ホテルで竣工披露式を行いました。式典には取引先やNGP協同組合の組合員など340名が出席しました。工事は2008年10月に着工、09年3月に新社屋、10年2月に部品庫を備えた新工場が完成しました。これに合わせて施設全体の見直し、統合・再

整備を進め、すべての工事を終えたのは今年の2月のことです。

「地域に開かれた工場で、明るく働きやすい職場を目指しました」と伊地知龍二常務は話しています。周辺地域に公民館がないということで、本社2階には広い会議室を設けて、公民館代わりに地域の住民の方に利用してもらうようにしました。地域に開かれた親しみやすい工場ということで、内部はエコ・カラーをふんだんに使用し、働く



敷地を逐次造成・拡大し、完成した新工場



社員にも働きやすい明るい職場

人にとっても気持ちのよい職場環境となっています。

## 訃報

5月11日、西山自動車商会(神奈川県平塚市)西山清代表取締役社長のご母堂、西山ハル江(にしやま・はるえ)様のご逝去されました。享年90歳。

6月5日、アイエス総合(宮城県登米市)高橋英樹代表取締役のご尊父、同社社長の高橋宗夫(たかはし・むねお)様のご逝去されました。享年73歳。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209  
http://www.ngp.gr.jp

### 株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201  
http://www.ngp.co.jp